



日刊 千葉動力労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄証) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.3.19 No3183

組合事務所封鎖、ロックアウトを弾劾し

18日正午よりスト突入

常軌を逸したスト弾圧を跳ね返しストライキを貫徹しよう

十八日正午、動労千葉はJR当局の正当な組合活動に対する不法・不当な介入に対し、断固抗議してストライキに突入した。JR東日本とJR総連・革マルはわれわれの闘いにおそれるがゆえに無法のかぎりをつくしてストつぶしにうって出たのである。

これが当局のスト破壊だ

十八日早朝より当局は本社、支社より大動員をかけスト突入の十数時間も前にもかかわらず、早くも職場を封鎖した。津田沼では構内を二重のフェンスで囲み、犬一匹入れぬようにしたうえ、サーチライト・監視カメラで構内すみずみまで監視している。十八日、まだスト突入十数時間前であるのに庁舎には一歩も近づけない、そのうえ突如工事を始め、なんと支部組合事務所をフェンスで囲い込みはじめたのである。職場は監獄、組合事務所は鳥カゴの中、こんな所が日本全国いったい全体どこにある。

また千葉運転区では、千葉支社運輸部長を先頭に門をがっちり閉め、当日の勤務者ですら時間直前まで入れず、門前に待たせ、またわれわれの責任者である本部役員、支部長をも入れようとはしない。「ストを予定しているから、話し合う必要はない」と言うのだ。

更に十八日夜からは、勤務途中の者(泊作業)であっても、十八日分の乗務が終わったら休養室からたたき出そうとしていた。スト突入のはるか前からの職場封鎖、ロックアウトである。

JRには法も常識もあったものではない、ただただ危機感にかられたスト破壊のエスカレーションだけなのだ。

責任は一切JR当局にある

動労千葉はこの不当弾圧をやめる様ただちに抗議し、千葉支社において交渉を行ったが、当局からは何らの回答は無く、職場の事態はますます悪化していった。

① JR当局はストを回避しようとする気も、話し合う気もまったくない

② あくまでも動労千葉組合員を排除しJR総連と結託し、スト破りに血道を上げる。その為にはどういう事態になろうとかまわない
という当局の姿勢であった。

四八時間ストを貫徹しよう

われわれは、かねてより通告してあった通り、「これを改めない以上、戦術を拡大する」事を当局につきつけたが、なを当局は回答しない。ここにいたり動労千葉は十九日二十日四八時間ストを何としても防衛しなければならぬ。それを決意し、十八日十二時よりスト突入を千葉支社に通告し、ストに突入した。

すべての組合員の皆さん闘いの火ブタはきつておとされた。あらゆる妨害をはねのけ四八時間ストを貫徹しよう。清算事業団十二名の不屈の闘いを全員のものとし、かならず奪いかえそう。

明日20日貨物営業がストに合流